

認知症予防に回想法は

現事業の中で対応

問

少し前になりますが、委員会研修で、北名古屋市で実施されている認知症予防対策「思い出ふれあい事業」の視察を行いました。この事業は、高齢者が若いころの思い出を振り返り、脳を活性化させる回想法を活かしたものです。

幸いにも須恵町は、歴史民俗資料館に過去の文物を所蔵しています。この資料を活かし、回

想法による認知症予防対策についての研究検討を進めることは、意義あることと思われま。町長のご見解をお伺いします。

答 平松町長

回想法は、認知症予防メニューの一つとしては良いと思います。認知症リスク要因の一つとして「人との関わりが少ない」ことがあげられ、年齢を重ねると活動範囲が狭まり、高齢者の引きこもりも増えていると言われていて、そのような中、須恵町では早くから介護予防事業として、行政区ミニデイサービスやわくわくデイサロンを実施していま

す。体操や陶芸など様々なメニューがあり、外に出て人とコミュニケーションを取ったり、いろんな事に興味を持つたり、身体や脳を使うことで認知症予防に効果がある事業

まちづくり

福祉コミュニティの可能性は

「暮らしのコミュニティ」の一部に

問

同時期の研修で、三重県名張市の校区コミュニティ事業を視察しました。

須恵町は、教育を基盤にした「教育のための町づくり」というスローガンのもと、コミュニティ事業を進展させ、全国でも最先端と評価されています。興味深いことに、同市においては、交付金による「地域づくり」を推進し、校区ごとに福祉・介護・健康事業に取り組んでいます。須恵町での当事業実施の可

となつています。歴史民俗資料館の資料の活用については、歴史的価値もふまえて社会教育課と協議していきたいと思ひます。

能性について、検討に値するや否や、町長のご見解を伺います。

答 平松町長

本町は、教育コミュニティから、名張市は、福祉コミュニティからスタートしており、根本的に規模や目的が異なります。本町では、福祉のみならず、行政分野のすべてを包含した「暮らしのコミュニティ」を推進しており、その一部として位置付けることは可能だと思ひます。

ここが聞きたい！

一般質問

○一般質問とは、議員が町長など執行機関に対し、町の行財政全般について疑問点をただし、報告や説明を求めることです。

○「問」については、議員が提出した要約文のとおり掲載しており、編集は行っていません。

答弁中の平松町長



施設

公共施設、学校のトイレは優先順位をつけて和式から洋式へ改築へ順次進めている

問

本町の人口は平成30年7月末で28,438人。50歳以上の成人は11,698人、人口の41%になります。女性が6,368人、男性が5,330人、女性は1,038人多くなります。運動会等多数の住民が一同にトイレを利用する時、和式トイレは利用しづらいとの声があります。

二世帯、三世帯の家族が楽しい行事を快適に過ごすため、また、これからの高齢社会に備えて和式トイレから洋式トイレ(温水便座付)に改築を要望します。

答 安河内教育長

これまでも公共施設及び学校の大規模改修工事等に合わせ和式を洋式に改修する工事を実施してきました。本町の学校の洋式トイレ設置率は52.9%で、全国平均より9.6%、県平均より4%上回っています。

第一小・東中学校の保護者から更なる洋式トイレの設置要望があるとのことですが、東中については昨年度の大規模改修工事で20カ所を洋式トイレにしています。また、第三小学校では本年度から3年計画で28カ所を洋式トイレにする予定です。

公共施設については、緊急の改修工事があるなど、後回しになっている状況です。財政事情を勘案しながら順次進めていきたいと考えています。

答 平松町長

トイレの件は、以前から質問があつており真摯に受け止めています。しかし、優先順位については、行政が決めることです。安全・安心のまちづくりから考えると避難場所に指定されている公共施設、また、保健衛生上の観点から中学校の女子トイレには、温水洗浄便座完備の洋式トイレを優先しなければならぬと考えています。



児玉 求 議員



田ノ上 真 議員